

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

◇例会日 第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD



よいことのために手をとりのあおう

第1716回例会 令和8年1月15日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

皆さん、こんにちは。今日は失敗学の話です。タイトルは雪印乳業大樹工場の状況という事です。



畑村さんの主旨としては、この会社がそっくりの事件を時代を挟んで起こしたという失敗の経験を繰り返した事を非難しているような段落です。

「伝えられなかった失敗」の中には、決して許してはいけないものもあります。それは、大きな失敗を招いてしまったにもかかわらず、その失敗を伝えなかったために、また次の大きな失敗を招いてしまう場合です。その典型的な例と言えるのが、雪印の事故でしょう。

2000年6月から7月にかけて、雪印乳業の製品による食中毒が、近畿地方などで次々と起こり、13,000人を超える被害者を出しました。その原因は、北海道の工場で、停電によって毒素が発生したのに、そのまま牛乳が製造、出荷されたことから起こったものでした。

実は、同様の事故は30年ほど前（実際は45年前）にも同社の別工場で起きていました。にもかかわらず、その失敗が伝わっておらず、まったく同じシナリオでまったく同じ事故が起きたのでした。おそらく、前の事故の直後には、真面目に何らかの対策が施されていたはずですが、しかし、それが長い間に形式的なものになり、管理も記録もちゃんと残らないまま、みんなが売り上げと利益のことだけを考えるようになり、前の事故を忘れ去ってしまった。こうして失敗は隠され、伝わらなくなってしまったのです。二つの事故を比較している記事がありました

※リスクマネジメントの成功（八雲工場食中毒事件1955年）と

※リスクマネジメント失敗（大樹工場食中毒事件2000年）

成功例：雪印乳業は発覚後、即座に謝罪と製品回収、謝罪広告の掲載、被害者への謝罪訪問など先手先手で対応措置を展開。危機管理（リスクマネジメント）の対応という点では、当時の水準を遙かに上回る措置であったことから、企業イメージへの打撃を最小限度に押さえたばかりか、長期的に見れば企業イメージ向上にすら繋がったと言われている。

当時の雪印社長であった佐藤貢は、「全社員に告

ぐ」という文章を作り、『信用を獲得するには長い年月を要し、これを失墜するのは一瞬であり、そして信用は金銭で買うことはできない』旨を記し、安全な製品を消費者に提供することこそが雪印の社会的責任であることを訴え続けた。雪印乳業は、1986年に中止されるまでは『全社員に告ぐ』を新入社員に配り、八雲工場事件の教訓を常に教え、安全な製品作りを心掛ける教育を施していた。その結果雪印グループは、乳業トップ・食品業界でも屈指の巨大企業グループに登り詰めた。

失敗例：しかしグループの事業規模拡大とともに、トップブランドへの驕りが生じ、安全教育も風化していった。そして45年後の2000年（平成12年）、当事件とほぼ同じ原因で雪印集団食中毒事件が発生し、当事件よりもはるかに広範囲かつ多数の被害者を出した。この際安全教育の風化に加えて、責任逃れに走る企業体質などの要因が重なって、対応が後手後手に回り、組織的な原因隠蔽や社長の報道陣に対する暴言など致命的な問題が次々と噴出、リスクマネジメントの観点では最悪の対応と揶揄される事態となった。

二つの事件での対応に差がある事で、企業イメージが違ってくるという事例です。

【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より
 - ①ファシリテーター養成セミナーの案内
 - ②ロータリー文庫通信
2. 米山記念奨学会よりはハイライトよねやま

干支の話

山田 利明会員

毎年同じような事ですが、内容については好きで不思議だと思っているだけで、本当かどうかは分かりません。

今年は2026年令和8年です。十干は甲乙丙の丙です。草木が伸びて形がはっきりした状況という事です。十干は1から10の数え方です。植物の芽が出て、種がはじけて芽が出て、葉が出

て、実がなるという状況を表した甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の教え方です。

十二支は季節を12で季節を数えたものです。月ごよみは月の満ち欠けの周期をもとにしています。これから始まったものもあるし、木星の位置で木星も12年周期で太陽の周りをめぐります。土星は30年でめぐります。縁起の良い木星と土星の位置関係で占っているのかなという事です。中国で星の位置から決めたのだと思います。

十干の計算方法は 西暦+7 / 10 余り 3

十二支の計算方法は 西暦+9 / 12 余り 7

九星の計算方法は 西暦+7 / 9 余り

9-余り 1

この計算から今年(2023年)は十干は甲乙丙で3番目の丙、十二支は子から始まり7番目は午にになります。九星は魔法陣と言って、横に3つ、縦に3つの1から9をマスの中に入れて、縦横斜めを足して15になるのは一つの組み合わせしかありません。北を1にすると、左回りに行くと、1,2と数字をつなぐと星のような形になります。それを星になぞって九星となります。計算すると一白水星になります。これが180年に一度しかまわってこない年になります。

24方位ですが、北が上で、北は始まりなので、真っ暗から始まり、子丑寅と30度ずつの角度でまわります。卯は真東、辰巳で午は真南です。それでは、十干はどこに配置するかですが、甲乙は東から始まります。卯の前が甲(きのえ)です。乙が乙(きのと) 丙丁が真南の左右にきます。今年(2023年)は方位とすると、南南東です。次に戊己は方位は中央という方位があります。宇宙は丸く立体的なので、戊己は真ん中にきます。庚辛は西の両側です。壬癸は子の両側にきます。そうすると、45度の左右が足りなくなるので、良が丑寅の方向にきます。鬼門になります。非常に寒いと。辰巳の間の巽は心地よい方向です。それから未申の間の坤は裏鬼門になります。乾の方向が戌と亥の間なので乾です。これは天国のような方向です。坤の方向は寒いと。良の方向は午後2時ころの真夏の感じです。これを24方位に当てはめると、幸せとか寒い、暑いとか時間の24時にはまります。

こういう状況を踏まえて、丙の年は神にささげる生贄の机、生贄を火で赤々と燃やしている状況です。一番気持ちが高ぶっている状況で、草木が伸びて形がはっきりした状況で、午の方向も杵のものと字で、木辺に午と書くと貫く、折り返す、最高点みたいなもので、最高点から折り返す時期という事で、一番盛り上がっているという事です。方位は丙の方位は南南東、盛りの最高点の状況。午の方位は南、暑い状況の最高点。丙午の女性は嫁にいけないというのはこのような状況から言われているようです。いまだに気にする人たちがいて、現在も丙午に生まれる女性は少ないようです。

九星は、一白水星です。一白水星が真ん中に入った意味ですが、一白水星が真ん中に入って北が六白水星、下が五黄土星ですので、五黄の反対側が暗剣殺なので、刺されるので、危ないという事です。

これが180年に一度回ってきます。一白水星

は、水とか北とか冬とか白です。免疫力の低下内臓疾患に注意と今年の暦に書いてあります。気持ちとしては、周りの意見に左右されず、正しい情報を収集して、冷静に行動することが必要ですという事です。

全体をあわせると、前年動き出した状況でしたが、今年(2023年)は最高点になって、折り返すという事で、今は政治も世界ももめて、ヒートアップしています。株も上がっていますので、今後は気を付けてという年になります。あくまでも星の並びからの事なので、偶然世の中がそんなふうになるので、不思議だと思っている状況です。

ニコニコボックス

♪本日、お焚き上げ祭、無事終了しました。
板谷 定美

合計 2,000 円

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
8	0	5	0	62.5%

